



株式会社ユニテック

技術者派遣で多くの企業のものづくりに貢献



自動車や家電、スマートフォンなど私たちの生活に欠かすことのできない工業製品に使われている「半導体」。今回は、半導体試験装置の製造をはじめ、さまざまなものづくりを行う株式会社ユニテックをご紹介します。

同社は、先代の岩切俊治さんが昭和54年に創業しました。2代目である現代表取締役の岩切さんは、オーディオ機器を取り扱う家電メーカーに就職し、ものづくりの基礎を学んだ後、平成7年に入社。父・俊治さんから多くの技術や知識を継承しました。半導体試験装置は、人間の体に例えると頭脳に当たる「半導体」が、指示通りに動くのか、また寒い地域や暑い地域でも正常に動くのか検査をするもので、同社では、主に装置の組み立てと配線を行っています。これには、ねじ締め、圧着はんだ付けなどの高い技術を要しますが、要素技術に対する教育を受けた熟練ワーカーによる「匠の技」が、高品質な製品の製造を可能としています。またこの技術を生かし、地下鉄の転落防止ドアや空港の顔認証ゲートなどの製造も行っています。

会社プロフィール

代表取締役 **岩切 崇**

【事業内容】 電子機器の組み立て・配線、各種ユニットの組み立て・配線、微細はんだ付けなど

【所在地】 富士見町 2-12-6

顧客の信頼と満足を得る「良い製品」を提供するため、同社では「Q（品質）・C（原価生産性）・D（納期）・T（技術）」を実践しています。「生産管理の基本である『より高品質なもの、より安く、納期内に提供すること』」に加えて、弊社では「T（技術）」を掲げ、お客様の難しいご依頼にも高い技術力で対応しています」と岩切さんは話します。

近年、多くのメーカーが抱えている技術者不足の問題に着目し、令和2年から技術者派遣事業を始めた同社。電子機器のプロフェッショナルを派遣し、技術提供を行うことで、さまざまなものづくりに貢献している他、企業の教育コスト削減や離職率の改善に寄与しています。今後について岩切さんは、「現在、経済産業省が国内での次世代半導体の製造拠点整備に向けて動き出しています。この追い風に乗りながら、常に一歩二歩先を見ながら、半導体市場に関わっていきたくです」と語ってくれました。半導体のさらなる進歩のため、同社のこれからの注目です。

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。
特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課(内線318)までお寄せください。

私の作品

〇俳句応募方法 一人3句以内。毎月末日(必着までに)、住所、氏名(ふりがな)、電話番号を明記の上、はがき・封書で広報広聴課。なお、一部添削して掲載する場合がありますが、不要であれば「添削不要」と記載してください。

| | |
|-----------------|------------------|
| 城西 榊原しずか | 富士見町 江利川敏夫 |
| 冬ざれや躑躅ながら世を生きて | 返納し身辺整理年用意 |
| 藤原町 斎藤雄次郎 | 荒木 藤田 栄之 |
| 正月や四角の餅を丸く喰ふ | 寒晴や心の扉開け放つ |
| 長野 鎌田 昇 | 荒木 高澤よね子 |
| 冬耕の土に陽の裏陽の表 | 冬晴れや一人暮らしの子を訪ね |
| 棚田町 川鍋 幽寛 | 渡柳 大西 道子 |
| 初雪や鶏冠の紅極めたり | 寂寥の一隅ともす石路の花 |
| 持田 小倉 繁三 | 門井町 宮田 淑尚 |
| 数え日や微風に揺るるカレンダー | ごまめ噛む癌のことなどさておいて |
| 富士見町 鈴木スイ子 | 南河原 今村 文女 |
| 白衣観音光背は寒夕焼 | 八度目の辰年の春夫はなく |
| 緑町 松林 真弓 | 下須戸 木戸 八重 |
| 生きざまは十人十色札納め | 風花に追いかけられる野の小路 |
| 忍 大澤 由子 | 上池寺 益岡 恵子 |
| 石段を振袖かゝえ初詣 | キョロキョロと迷い鴉が裸木に |
| 佐間 西岡 備中 | 富士見町 野口 勇作 |
| 寝ては起き起きては眠る炬燵守り | 手袋の上から触れる細き指 |
| | (三沢 一水 選) |

来て! 見て! 図書館

行田市立図書館 開館時間：午前9時～午後7時
 佐間 3-24-7 休館日：2月5日・13日・19日・26日・29日、3月4日・9日・11日
 TEL：556-4227 FAX：555-3770
 ※休館日の図書館の返却はブックポストをご利用ください。

臨時休館のお知らせ

3月9日(土)、図書館は臨時休館します。
当日は、図書館前のブックポストへの返却もできませんので、ご注意ください。

ぬいぐるみおとまり会

お気に入りのぬいぐるみを1日だけ図書館にお泊りさせてみませんか。一緒に読み聞かせに参加した後にぬいぐるみを預かりします。

▶日時 3月2日(土)午後4時集合、3日(日)午後4時お迎え

▶場所 図書館ミーティングルーム

▶対象 小学校低学年以下(行田市立図書館の利用カードをお持ちの方)

▶定員 6人(定員を超えた場合は初めての方を優先し、その後抽選。参加が決定した方には2月25日(日)までにお知らせします)

▶その他 申し込み時にぬいぐるみの名前を伺います。

▶申し込み 2月18日(日)までに直接、電話、行田市電子申請・届出サービスのいずれかの方法により同館

ぎょうだ電子図書館 おすすめ本

ぎょうだ電子図書館 (https://web.d-library.jp/gyoda/)

- 東京タワーに住む少年電子版 山口理/作
- アリバイ崩し承ります電子書籍版 大山誠一郎/著
- 機動戦士ガンダムSEED 1 すれ違う翼 矢立肇/原作
- 変な家電子版 雨穴/著

大人のためのミニ朗読会「春」

▶日時 3月10日(日)午後1時30分～2時30分(午後1時開場)

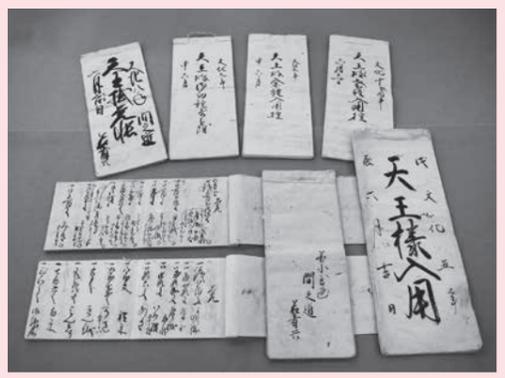
▶場所 中央公民館第1学習室

▶内容 「教科書名短篇 家族の時間」より「字のない葉書」 向田邦子/著 中公文庫
 「ヒヨコの蠅叩き」より「夏に太り、冬に太る」 群ようこ/著 文春文庫 他2作品

▶定員 70人(先着順)

▶協力 行田朗読の会

▶その他 申し込みは不要です。



天王様御祭礼入用控(郷土博物館蔵)

行田 歴史系譜 359

資料がかたる 行田の歴史 59

若小玉の「天王様」と若者たち

「天王様」といえば、本町通りで現在行っているお祭りを思い浮かべる方も多いでしょう。しかし、今回紹介するのは、若小玉地域で単独の祭りに当たります。「埼玉の神社」勝呂神社の項目を見ると、若小玉の「天王様」は、かつて小字の中村耕地にあった八坂神社(現在は勝呂神社に合祀)の祭礼であったことが分かります。戦前まで7月14日に「天王様」があり、若い衆の担ぐ神輿が家々の庭先を練りました。合祀後も祭礼の前日には旧社地に注連縄が張られ、神輿が安置されたようです。戦後、神輿の修復に莫大な費用を要することから立ち消えと

なり、祭礼も途絶えてしまったと伝わります。竹内家文書(郷土博物館蔵)には、文化4年(1807)から文化10年にかけての「天王御祭礼入用控」という古文書が伝わっています。これらは毎年の祭礼費用の収支が書き上げられた帳簿です。いずれも6月の吉日を選んで書き始められており、祭礼の約1カ月前から準備が開始されていたことが分かります。

これらの帳簿の表紙や裏表紙には「若小玉村 問之道若者共」と墨書きがあります。問之道は若小玉の小字の一つであり、そのコミュニティに属する若者たちが祭礼実施の主体であったことを物語ります。帳簿には毎年20人ほどの農民の名前があり、その役割を持ち回りで担当し、祭礼を実現に導いていたのです。

「天王様」の暴れ神輿は流行り病を追い払い、人々の無病息災を願う意味合いがありました。江戸時代においても数十年おきにさまざまな疫病が流行し、そのたびに多くの人々が犠牲になりました。「天王様」と同じ疫病除けを目的とした暴れ神輿、獅子舞(龍頭舞)、祈禱は、このような疫病との闘いの中で地域社会が生み出し、地元の若者たちが守り抜いてきたハレの行事といえるでしょう。

(郷土博物館 澤村恰薫)